

ARAI NEWS

Actual Story From Inside.

秘密 L字型Dリングの



アゴ紐は、帽体、緩衝体と共に、ヘルメットの3大要素といわれる重要なものですが、その締め具の主流は何と置ってもDリングです。

Dリングも使い易い締め具とは置えな
いかもしませんが、なんと置つてもこ
れのいい点は、他のどんな締め具よりも
実績があると言えます。締めた事が間
違ひなく確認でき、高速時の転倒等で何
度も衝撃を受けたような際も、最後まで
しつかりとヘルメットを支えてくれるの
がこのDリングなんです。ワンタッチ金
具やアゴ紐のないヘルメット等も登場し
ました。たしかに新品を手にとってみる
と、カチッと止まり、これならば確か
と思えるような締め具もあります。でも、
使っているうちに汗、油、ほこり等は

詰まるもの。
そうならば、締めたつもり
が実は中途半端な止まり方だったため、
衝撃を受けたはずみではずれてしまう等
の問題も出るようで、実際の話、数多く
の締め具の中で、結果がシビアに表われ
るレースの世界でも、最後まで生残った
のは結局Dリングです。

ところが通常のDリング具と言うのは、
締めれば締める程、なぜかほほ骨に喰い
込むんです。アライもまだ昔からのDリ
ングを使っていた頃の事、ある有名選手
から「アゴ紐は目一杯締めた方が安心出
来るんだけど、Dリングが喰い込んでほ
ほ骨が痛くなってしまう。でも、Dリン
グじゃしようがないんだろ。」と言われた
事がありました。そして、これがアライ
の喰い込まない、リング開発の切っ掛け
でした。現在販売されているアライのD
リングをよく見て下さい。通常のそれと
は違って、内側と外側で形状が異なるD
リングが組み合わされ、ほほに喰い込ま

ないよう出来てます。これがアライ式D
リングの秘密、世界、数多くの国で特許
として認められている優れたものなんです。
従来からのDリングは同じ形リングを
二つ、テープの折り返しでとめてあるだ
けです。だからアゴ紐を締めると、外側
のDリングで、内側のDリングがななめ
方向に突き出され、これがほほ骨に喰い
込んでくるんです。そこでアライは従来
の形状のDリングを内側にして、外側
には先がL字型に曲がったものを開発し組
み合わせました。これならば外側のDリ
ングは、テープの引つ張られる方向をじ
やまないので、内側のDリングが突き
出される事はありません。だからほほ骨
も痛くないのです。聞いてみれば簡単な
事ですが、コロンブスの卵も同じ。こう
してアライは既に8年前、世界中の誰も
が気付かなかった発見でDリングの喰い
込みを解決したのです。

その後も使い易さを追求し、アゴ紐の
テープも肌にならなく、喰い込みの少な
い25mm巾のものにいち早く変更して
ます。さらに、最近の製品ではアゴ紐のバタツ
キを防ぐストラップスナップ（スナップ
ではなくてマジックテープに出来ないか
とこ意見も数多く頂きましたが、マジック
テープはアゴ紐を毛羽立たせてしまう
ので、採用出来ません。いや、簡単に寝
る事の出来るリリースタブ
も取り付けられています。
使い易く、ほほに喰い込
まないから、しつかりとア
ゴ紐を締めることが出来る。
こんな細いところにもアラ
イの技術と信念は活かされ
ています。

